



六月六日芒種の節より  
月命丙午七赤金星の月  
暗剣殺西の方

旧  
六五  
月月  
大大

春から夏への季節の変わり目がこの月で、太平洋側の高気圧が次第に発達し、日本列島に沿う気圧の谷ができて、その谷間に低気圧が通ったり、不連続線が生じたりして雨が降り続くのである。十日前後には「入梅」がある。これは太陽が黄経八十度に達する刻をいう。ちなみに入梅とこのころ梅の実が熟することから出ている。

高温多湿であるが、気圧の谷に入ったとき、妙に底冷えのすることがある。食中毒が多発するのもこの月である。細菌の繁殖に最適な気候であり、寒暖に差がある季節だからということがいえる。たまの晴れ間を十分活用し、風通し、家具、食器類などの手入れをし、とかく不衛生になりがちな梅雨どきを無事に過ごすよう心掛けよう。

【冠】この月に限ってと言う行事は別にないので、出

産より初誕生日までの行事を整理してみよう。

この世に生をうけた新生児は、産声（うぶごえ）をあげ、産湯につかり、産衣（うぶぎ）につまみ、親戚縁者に無事出産を通知したり、お祝いに餅をついたりする。

生まれて三日目は「三つ目祝い」、五日目を「五夜目」といって祝宴を張るところがある。七日目は「お七夜」といって新生児の名前を披露する儀式がある。出生届けは、生まれた日から十四日以内に市区町村の役所に提出する。

生後三十日前後（土地により多少違う）には「お宮詣」といって氏神様の所にお参（はら）いをしてもらう。百二十日前後の「お食初め」を終えて、一年目の誕生祝いになるのである。

〔祭〕 第三日曜日は「父の日」、五月の「母の日」と同様、父の働きあつての自分と思えば、父へも感謝をささげるべきであろう。

二十一日前後は「夏至」。文字からいえば夏の真々盛り、北半球では昼間が最も長く、夜が短い日である。